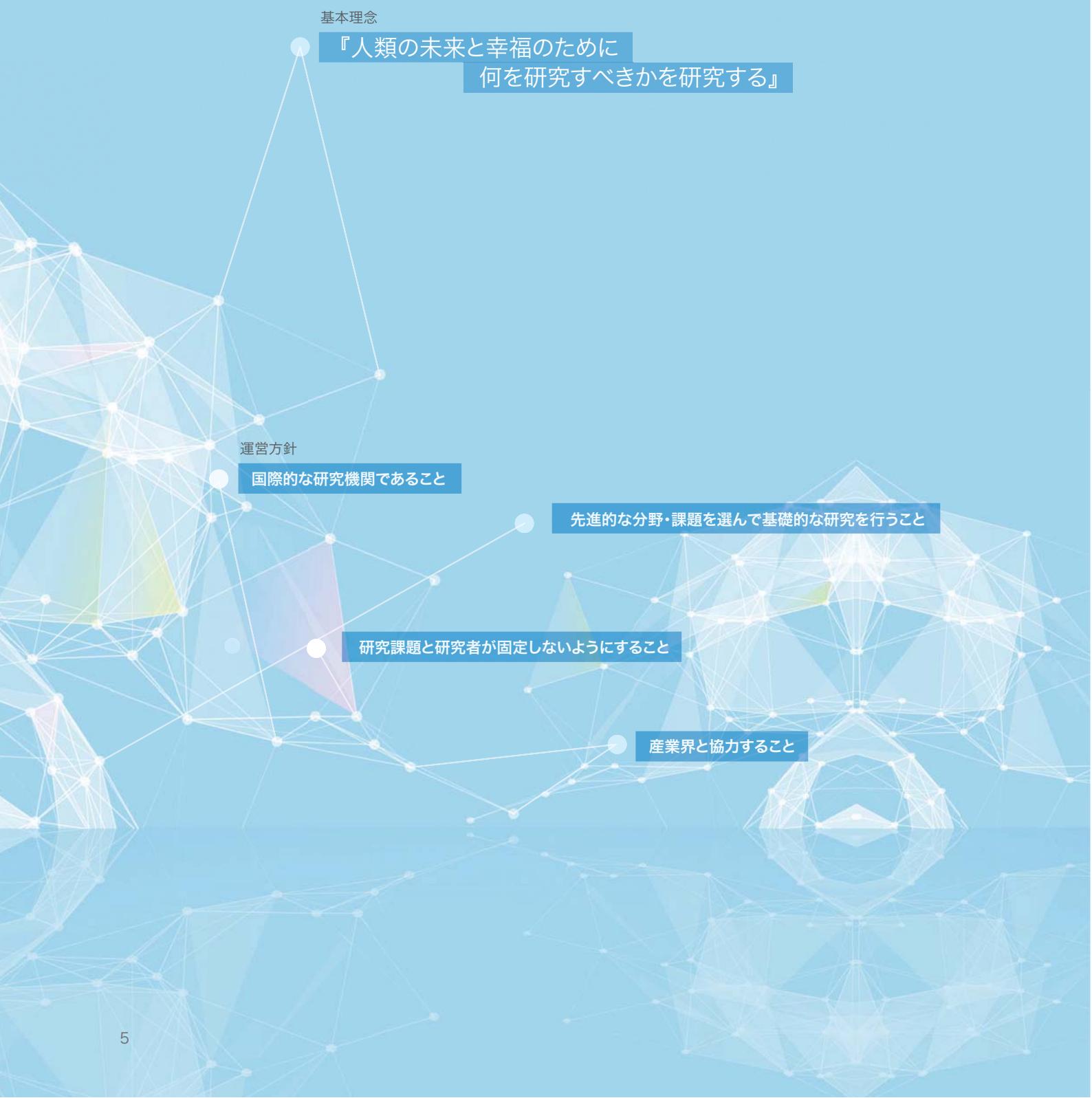


第1章

高等研の責務



1. 高等研創立の理念の想起とその実践

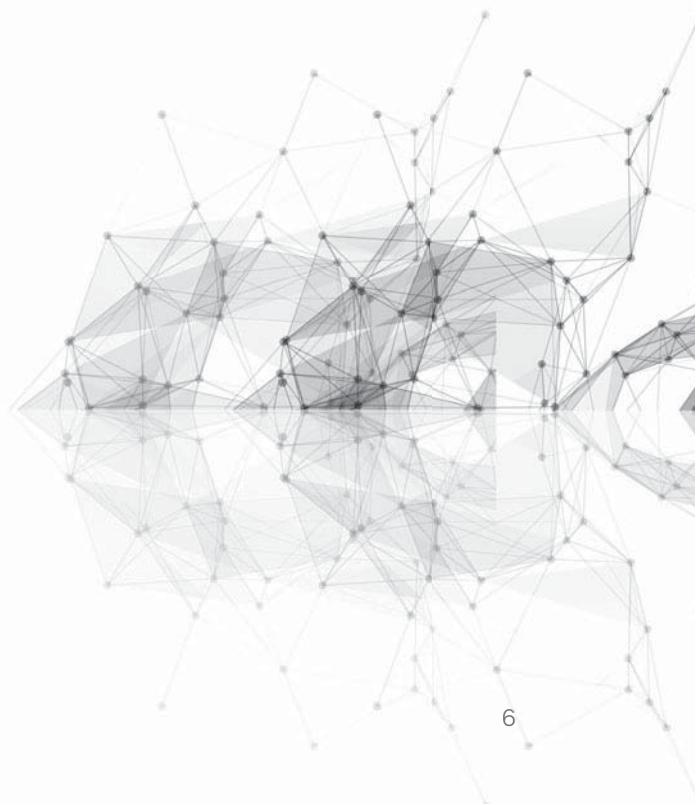
高等研創立の基本理念は以下の通りである。

「私たち人類は、現在、様々な要因で持続的生存が脅かされそうな諸課題に直面しています。私たちは、次の世代の人々は、さらにその次の世代の人々は、今までどおりの生き方で、価値観でこの地球上に生存しつづけられるでしょうか。こうした時代的・社会的背景に由来する諸課題にどのように対処していくのか。そして、21世紀にあるべき文化・科学・技術はどのような姿なのか。このような問題に対して考え方を進めていく定法はありません。

国際高等研究所は、『人類の未来と幸福のために何を研究すべきかを研究する』ことを基本理念とし、産・学・官の協力のもと、これらの諸課題に基礎的研究によって迫ります。世界の英知を結集してこれらの研究を展開していく中から、学術研究における新しい方向性を生み出し、あるいは新しい概念の創出を指向し、学術研究文化の発展に寄与することを目的とします。」

さらに高等研は創立時に、
「国や研究分野を超えた優秀な研究者が集い、
自由な雰囲気の中で交流、討論する場であること」
を運営方針とし、下記の4項目を重要な柱としている。

- 1.国際的な研究機関であること
- 2.先進的な分野・課題を選んで基礎的な研究を行うこと
- 3.研究課題と研究者が固定しないようにすること
- 4.産業界と協力すること



2. 高等研の特長

高等研は、長い日本の歴史において文化的・経済的価値を創出し、蓄積してきた京阪奈の中心にあって、日本の優れた文化・芸術・技能・技術・風土・環境を俯瞰し、課題の発見から解決まで、それらを総合できる位置にある。世界中でいくつかの類似機関があるが、こういった歴史的・社会的環境の中で高等研は、ユニークで自律的な特長を発揮することができる。

したがって教育者・科学者・企業人・知識人・宗教者・一般市民が、国や組織、分野を超えて相集い、自由な雰囲気と規律の下に討論し、ここを起点として知識や文化、社会、経済の新しい方向性を見出し、実践していく場とすべきである。そのことは、人文・社会科学系の知識社会への貢献の低さが取りざたされる今日、身を以て一つの答えを示すことにもなろう。



3. 「問いかける力」の涵養と実践

現代は、これまでの近代主義的な考え方と行動が持続しえないトランス・サイエンス時代を迎えているといわれる。このような時代にあって、ますますグローバル化されていく世界における諸国家、諸民族間の共存、人類社会の持続可能性についての根源的な課題を探究し発見し、これを世界に問いかける必要がある。さらに、今後の高等研の社会的存在意義として、内外の様々なセクターと議論し、解決策を模索し実践することは極めて重要である。

こうした観点から、「何を研究するかを研究する」という創立時の奥田東先生の理念は、現在も鮮明で極めて重要である。

「問いかける力」は、「知力」、「想像力」、「洞察力」であり、「情報力」であり、「財力」も必要である。この多角的な力を組織として一元的持続的に保持するためには、高等研の創立の基本理念を踏まえて、研究と実践活動を行う体制と人材、資金を確保する必要がある。

4. 高等研から世界に問いかける意味

日本は狭い島国であるが、四季をもち豊かな自然にめぐまれ、神道や仏教など穏やかな宗教によって寛容と忍耐の精神を培い、まじめに工夫しながら生きるという人間力を磨き、日本が誇るテクノロジーを創り、さらに全体の調和を保つという美的センスともいるべき考え方で歴史を刻んできた。今日の地球社会は、文明の発展によって有限の地球となってしまっていることは明らかである。このいわば宇宙の中で島国となってしまった地球で、人類がお互いに平和的に共存していくためには、日本人が歴史的に築きあげてきたものの考え方の重要性を世界に問いかけることが大切であり、こういったことは日本から、高等研からしかできないことであろう。

このような考え方は日本だけでなく、世界のあらゆる国、民族、人々がよく理解し、共有し、相互協力して実践していかねば、地球と人類社会の将来は危ういといわざるをえないだろう。したがって高等研は、これから将来へ向けての方向性、内容を具体的に固めていくとともに、世界のいろいろな団体等に呼びかけ、お互いに協力してこのような運動を進めていくことが大切である。

